

書名 項目	新しい道徳 2 東 書
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	○巻頭にオリエンテーションが用意され、学習に入る前のウォーミングアップを行うことができ、道徳授業のイメージや学習の流れをつかみ、道徳的価値を自分との関わりで理解させる工夫をしている。 ○人間としての生き方を深く考えさせるために、主体的に考え、対話を通して、深い学びへと導く工夫として、基本的な学習の流れを示すと共に、問題解決的な学習を各学年1か所、2時間扱いで編集している。
特 色 内 容 資 料 表記・表現	＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞ ○「いじめ問題」「生命尊重」を全学年で重要項目として取り上げ、「ユニット形式」の2時間、3時間扱いの教材として扱っている。 ○情報モラルに関しての教材を全学年に配置している。SNSを題材にして、写真やイラストなどを用いて、取り掛かりやすくさせるとともに身近な問題として意識できるようにしている。 ＜発達の段階に即しつつ深く考えさせ、ねらいを達成するための工夫＞ ○1年生に「橋の上のおおかみ」が入っていて、小学校からのつながりが見えるようにしたり、1つの内容項目を3学年で系統的に配置し、学年を追ってより深く考えられるようにしたりしている。 ○教材末尾に「考えてみよう」が配置され、考え、議論し、問題を解決するという学習の流れを作っている。 ＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○各学年に2か所、役割演技を主体とした活動「ACTION!」を用意し、役割演技や体験学習に取り組みやすくしたり、「つぶやき」コーナーを設け、学習しながら思ったことを書き込ませたりして、考え、議論するよう設定している。 ○話し合い活動を効果的に行うため、巻末付録にホワイトボード用紙を収録している。巻頭の話合いの手引きも活用することが出来る。 ○テーマで分類するページ、内容項目別一覧を配置している。 ○小学校・中学校関連教材や郷土資料、スポーツ選手や著名人、漫画、新聞などさまざまな資料や切り取り式資料（心情円）などの付録がある。 ○「ACTION!」や「Plus」が用意され、さまざまな学習方法に取り組める。 ○教材を4つの視点と内容項目ごとに分類し、一覧にしたページがある。 ○UD書体を使用し、一般の書体よりもやや太めで、視認性が高い。 ○巻末に切り取り式の自己評価用紙を収録し、生徒の自己評価、教員側の評価がしやすくなっている。
総 括	○ユニット教材が特徴的である。2～3週をまたいでの道徳授業ができる。 ○内容項目の道徳的価値が理解しやすいように、マークが多用されている。 ○「いじめ」と「生命尊重」は全学年重要項目であり、ユニット構成にしている。役割演技を主体とした活動「ACTION!」、感じたこと思ったことを自由に書き込める「つぶやき」、巻末には心情円やホワイトボード用紙が収録され、生徒が主体的に学習し、振り返りができるようになっている。

書名 項目		輝け未来 11 学 図
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり		○教材を通して自ら課題意識をもち、多面的・多角的に深く考えるため、発問「学びに向かうために」を置き、道徳の学習へ向かうための考え方や意義について考えさせている。 ○質の高い多様な指導法について「考え・議論する道徳」活動を組み合わせて、「問題解決的な学習」「体験的な活動」を発問の中に取り入れ、多様な学習が展開できるように工夫されている。
特色	内 容	＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞ ○「いじめ」問題を全学年で重要項目として取り上げている。考える際、直接教材と間接教材を取り入れ、正しい判断をできるようなねらいが見える。 ○「情報モラル」についての教材を全学年に配置し、また、「防災」「国際理解」「社会参画」「キャリア教育」「環境」「伝統文化」「生命の尊重」「健康」の教材がある。 ＜発達段階に即しつつ深く考えさせ、ねらいを達成するための工夫＞ ○生徒が関心をもちやすい、オリンピックやパラリンピックなど、世界を舞台に活躍するアスリートやスポーツに関する教材が配置されている。 ○「教材」を通して自ら課題意識をもち、多面的・多角的に深く考えるため「発問（学びに向かうために）」と「心の扉（22内容項目の道徳的価値に焦点化したもの）」を置いている。 ＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○役割演技ができる体験的な学習の手立てを提示したり、「考えよう・意見交換」では、道徳的価値に迫るように考えさせたりする工夫がある。 ○教材文末尾に「学びに向かうために」を設置し、課題を発見し、主体的な学びを導く発問を用意している。最後の「見つめよう」の問いでは、見方を広げたり考えを深めたりして、自己を見つめ、これからは活かす問いかけになっている。
	資 料	○「保護者の方へ」が巻末に置かれ、学校での学習が家庭生活の中でも活用されるよう働きかけており、家庭との連携を意識している。 ○学びを蓄積し、自分自身に生かすことができるように、「学びの記録（学期ごと）」や「一年間の振り返り」をするページが置かれている。
	表記・表現	○教材冒頭に色を変えて、テーマが示されているのでわかりやすい。 ○現代的な課題などねらいを表す10種のポイントマークで示し、目次や索引にも使用している。 ○横広の製本となっている。
総 括		○22の内容項目の道徳的価値に焦点化した「心の扉」を置き、教材とあわせて自分自身のものの見方、考え方を深めていけるようにしている。 ○学期ごとに「学びの記録」が用意されており、学びを蓄積し、自身の成長や変容感じ取ることができるようにしている。 ○各学年を夏休み、冬休みを挟む3つの期間で区切っている。学期末に「学びの記録」が用意されている。

書名 とびだそう未来へ 17 教出	
項目	
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	○「導入」で学習の目的をつかんで、自分の経験や考えを見つめ、教材を読んだあと、「学びの道しるべ」を活用して道徳的諸価値の理解を深め、考えや心の変容が実感できるよう工夫している。 ○教材ごとに、考える視点や見方を変えてみる提示がなされた手引きにより、多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める工夫がなされている。
特色	＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞ ○生命の尊さを考えさせる教材、いじめや差別のない社会を考える教材、情報との付き合い方を考えさせる教材等が数多く掲載されており、現代的な課題に対する教材が充実している。 ○社会で活躍する人々の言葉を取り上げ、自分自身を高めようとする意欲を培う教材が入っている。 ＜発達の段階に即しつつ深く考えさせ、ねらいを達成するための工夫＞ ○行事、体験活動が行われる時期を考慮し、関連する教材を配置するなど、校内の活動との連携を図りやすい教材配列になっている。 ○1年194ページ、2年178ページ、3年178ページの中で「取り組みやすさ」を重視して、短い教材、見てわかる教材を多く扱うことで生徒が無理なく学習できるように教材内容が精選されている。 ＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○教材の冒頭に「導入」の文章を設け、学習のねらいを明確にして、テーマに沿って対話的な学びを深めていくことにつなげている。 ○末尾の「学びの道しるべ」が物事を自分に引き付けて考えたり、多面的・多角的に考えたりする助けとなる発問が示され、主体的・対話的な学びを深めている。
	資料 ○道徳教育の中で長く読み継がれてきた定番教材が数多く掲載されている。 ○「心のかがやき度」を星で表したり、ワークシートをポートフォリオとしたりすることで、評価に活用できる。（自己評価欄あり） ○一時間一教材で、コラムなどは極力つけないことで、学習内容が焦点化しやすい。
	表記・表現 ○教材ごとに4つの視点を色で示している。 ○漢字にふりがなを振り、ユニバーサルな視点で教科書を作成している。 ○1ページの読み物教材の字数が一段でかつ1行の長さや活字の大きさが適当であり、読みやすさに配慮されている。
総括	○一時間一教材で、コラムなどは極力つけないことで、学習内容が焦点化しやすいシンプルなつくりになっている。 ○全体的に明るい装丁がなされており、挿絵も中学生になじみやすく希望を感じる教科書のつくりになっている。 ○「導入」で、価値に迫るような問いかけをしたり、「学びの道しるべ」で、主発問や振り返りの発問が提示されたりして授業の流れが明確化されている。

書名 項目		中学道徳 きみがいちばんひかるとき 38 光村
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり		○全学年を通して、教材末にてびき「考える観点」が設けられ、道徳的価値の理解や自覚を深めたり、自分に引きつけて考えるために話し合ったりするなどの発問が、教材に応じて書かれている。 ○全学年を通して、教材末にてびき「見方を変えて」が設けられ、「考える観点」という視点を変えた問いにより、生徒が多面的・多角的な見方や考え方ができるように工夫されている。
特色	内容	＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞ ○いじめ問題を中心に現代的な課題について、学びを深めるコラムを設けている。直前の教材と関連付けて活用したり、コラムを読んで新しく問題提起をするなどの活用もすることができる。 ○道徳的行為に関する体験的な学習として、人とよりよい関係を築くためのコツを身に付ける取組が提示されている。 ＜発達段階に即しつつ深く考えさせ、ねらいを達成するための工夫＞ ○内容項目が各学年で網羅されており、各教材がどこに対応するかは教材冒頭のマークと主題で示されている。 ○各学年の付録「学びの広場」に、小学校の道徳の定番教材を収録し、中学生に成長した今の考えを改めて語り合うことで、生徒たちの深い学びにつなげることができる。 ＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○言語活動を重視した教材、マンガで見せる教材、複数時間で学習する教材を設けるなど、考え・議論する道徳のために生徒の興味関心を引き出す教材がある。 ○教材の後掲「てびき」は、めあてを意識させ、そのめあてに迫る発問の設定、多面的・多角的な見方や考え方ができる設問、さらに深く考えたり行動につなげたりできる関連事項が掲載されている。
	資料	○紙質が反射しないような配慮がされ、色や写真は目に優しく配慮している。 ○言語活動を重視した教材、マンガで見せる教材、生命の尊さを系統立てて収録、複数時間で学習する教材を設けるなど、考え・議論する道徳のために生徒の興味関心を引き出す教材が掲載されている。
	表記・表現	○教材がユニットを組み、内容項目を関連させた配列になっている。 ○年間で4つに分かれ、それぞれに4つの視点がバランスよく配置されている。 ○1ページの読み物教材の字数が一段でかつ1行の長さが適当であったり、1年生は文字がやや大きくされていたり、読みやすさに配慮している。
総括		○各教材の冒頭に、主題名が示されていたり、学びの過程が示されたりして、価値に関わる意識付けや導入に活用できるようにするなど、初任者などの若手教員も順序立てて授業を組み立てられるよう配慮されている。 ○付録の「学びの広場」や、「てびき」、各コラムなどによって、多面的・多角的な考え方ができたり、自分の考えを深めたりする手立てがなされている。 ○内容、表現が落ち着いていて、授業での扱いやすさが考えられている。

書名 項目	あすを生きる 116 日 文
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	○「学習の進め方」で、問題解決的な学習や、体験的な学習で自分との関わりができるようにして、道徳的諸価値についての理解を深めるようにしたり、全教材に「主題名」「導入発問」「あらすじ」「ねらいに迫る発問」「前向きに自分に生かすための発問」を記載し流れを明確にしたりしている。 ○別冊に「道徳ノート」があり、多様な話し合いに対応できるように工夫され、「自分のことを書いてみよう」で、自己をみつめることができるようにしている。
特 色 内 容 資 料 表記・表現	＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞ ○1年生は、1年間に3カ所「いじめ」について考え議論できるよう年間で複数配置されており、「いじめ」を直接的・間接的に扱った教材に指導内容の多様化を持たせ集中的に学習することで、深く考えられるようにしている。 ○「情報モラル」については、倫理やセキュリティなどに関わる内容を掲載している。 ＜発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫＞ ○教材やコラムをユニット化して配置し、それぞれを関連させるだけでなく、1年間の流れを重視して教材を配列している。 ○3年間の発達段階を考え、特に「人間としてよりよく生きる喜び」をもたせるキャリア教育に配慮した「であう」「みつめる」「ひらく」を設定し、将来へ向けての視野を広げられるよう配慮している。 ＜「考え・議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○「考えてみよう」「自分に＋1」の2つの発問例を元に考えることによって、道徳性を育てることができるようにしている。 ○別冊「道徳ノート」を併用することで言語活動が充実し、多面的・多角的に考え、議論する授業が実現しやすい。自己を見つめたり振り返ったりすることができる。 ○詩人、研究者、スポーツ選手等、人間として誇りある生き方が伝わる読み物教材を多く用い、それらにあった挿絵や写真等も多く掲載されている。 ○生徒の学びと教師の指導の参考例となるよう「学習の進め方」が設けられ、学習ステップが示されている。 ○内容項目との関係を示した4つのアイコンで色だけでなく形から見分けられるように配慮している。 ○漢字にルビをつけ、難解な語句や必要な情報を頭注で解説している。 ○学年が変わるとフォントの大きさも変化している。
総 括	○別冊の「道徳ノート」が考え・議論する道徳の授業を支え、評価を無理なく実現できる構成となっている。 ○発達段階を考慮して1学年では「いじめ」を重点化して複数の読み物教材等でユニットを構成している点が特徴的である。 ○各教材の冒頭に主題名が示されたり、登場人物の顔を紹介したりすることで内容把握を助け、議論する時間を確保しやすくしている。

書名 項目		明日への扉 224 学 研
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり		○生徒が自ら主体的に課題を発見し解決する資質や能力を培うことを重視し、教材の主題名を記載せず、生徒が自ら気づくことを大切にした構成・展開にしている。 ○教材および紙面の構成が、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」を明確にしていることで、道徳的判断力や実践意欲を育むようにしている。
特色	内 容	＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞ ○情報モラル、防災教育、消費者教育、キャリア教育など、現代的課題を取り扱った教材は、目次および教材のタイトル下部にマークがついて示されている。 ○「生命尊重」「いじめ防止」を重点テーマとして全学年で取り上げ、自分の命、他者の命、それらを支える様々な命の尊さなど、多面的・多角的に命について考えをもち、自己を見つめ考えられるようになっている。 ＜発達段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫＞ ○三種類の特設ページ＜深めよう（役割演技などの体験的学習）＞＜クローズアップ（生きる上での考え方の選択肢を増やす）＞＜クローズアッププラス（関連情報を用いて視野を広げる）＞を設定し深い学びを図っている。 ○巻頭に「自分を見つめるページ」、巻末に「1年間の学びを振り返るページ」があり、1年間の自分の成長を感じ、主体性や自尊感情を高める事ができる。 ＜「考え・議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○特設ページの「考えよう」や「クローズアッププラス」が随所に配置され、様々な視点や考え方を生徒にもたせることによって、主体的・対話的深い学びを実現させようとしている。 ○主題名やねらいとする価値を本文より前に示していない。生徒が教材文を読んで、自由に考えをもつことができる。そのため、課題解決に際して、様々な面からの意見を伝え合うことができる。
	資 料	○様々な分野で活躍する、今を生きる人たちや先人の生き方から学ぶページがある。 ○自発的かつ主体的に取り組む内容・構成に配慮している。立場が異なる人の意見を紹介し、生徒が自分自身に向けて意味を問い、考えを深める新しい形の教材が含まれる。
	表記・表現	○教材文より前には、主題名等は記載せず、4つの視点ごとに色分けした目印が使用されている。 ○活字は大きく見やすい書体を使うなど、UDインフォントを使用している。 ○教科書のサイズが大きく設定されており、写真やイラストを見やすくしている。
総 括		○主題名を記載せず、生徒が主体的に課題を発見し、解決する能力を培うことを重視している。 ○「自己肯定感」「アンガーマネジメント」「メンタルトレーニング」などにも対応する特設ページが設けられている。 ○読み物教材に長く扱われてきたものが多い。他社のような授業スタイルの提示はなく、教師の指導の主体性がもとめられている。

書名 項目		中学生の道徳 232 廣あかつき
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり		○巻頭に道徳の時間の学び方の紹介ページがあったり、「考える・話し合う」を設置したりして生徒が問題意識を持って取り組み、主体的・対話的で深い学びができるよう示している。 ○別冊の「道徳ノート」において、道徳的価値について深く考えるコラムや記述スペースを設けることで、生徒が道徳的諸価値を理解した上で、自分を見つめ、自己の生き方について考えることができるようにしている。
特色	内容	<現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○いじめ問題について、関連する内容項目の教材で様々な道徳的価値を深め様々な立場からいじめについて捉えることを通して、いじめ防止につながるようにしている。 ○情報モラルについて考える教材を全学年で取り上げ、特設ページを設け、折りに触れて活用できるようにしている。 <発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫> ○「生命の尊重」に重点を置き、3学年を通して「自主・自立・自由と責任」「生命の尊さ」「思いやり・感謝」「よりよく生きる喜び」に焦点をあてた教材を配置している。 ○先人の伝記や様々なジャンルで活躍する著名人・スポーツ選手などの実話から、勇気や生きる喜びを与える教材を掲載している。 <「考え・議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○教材文の後ろに、学習の手がかりとなる「考える・話し合う」を配置し、考えたり話し合ったりする視点を示すことで、生徒が主体的に思考を深めたり、積極的に話し合いを進めたりできるようにしている。 ○別冊の「道徳ノート」に「心のしおり」があり、教材別、内容項目別に学習の自己評価や自己の成長を振り返ることができるようにしている。
	資料	○実話を数多く掲載し、「考える・話し合う」で教材に関連した知識理解や人物紹介、格言などの紹介を掲載している。 ○「問題解決的な学習を促す教材」「体験的な学習を促す教材」を掲載し、様々な学習の取り組み方ができるようにしている。
	表記・表現	○学習の手がかりに「めあて」を示して、教師や生徒が一つの学びに向かっていけるようにしている。 ○漢字にルビをつけ、難解な言葉や必要な情報は脚注で解説している。 ○イラストや先人の名言の文字が淡く、全体的に優しい色合いである。
総括		○本冊と別冊とが直接ページごとに対応しているのではなく、別冊では価値そのものを取り上げ、同じ内容項目でまとまるように構成されている。 ○いじめ防止、生命尊重を全学年で重要項目として、様々なアプローチから教材が取り上げられている。 ○実話や詩、名言など現実味のある、資料が多く用いられ、自分の生き方について、手本としたり、考えをより深められたりできるようになっている。

書名		道徳 中学校		1 生き方から学ぶ 2 生き方を見つめる 3 生き方を創造する	2 3 3 日 科
項目					
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり		○巻頭のオリエンテーションのページで道徳の学習についてのイメージを持たせ、巻末の「学習の振り返り」や「これからの心の成長」で書き込みをしながら、自らの成長を実感できるようにしている。 ○多様な個性を持つ個人が社会において自立していくための、基礎を培いながら、道徳的価値についての理解を元に物事に対して、多面的・多角的に考えよりよい生き方について話し合うことができるようにしている。			
特色	内 容	<現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○「いじめを許さない心」を鍛える、正面から取り上げている教材や生命を救う守る教材を取り上げている。 ○全学年で情報モラルを扱った教材を配置し、インターネット・コミュニケーションについて、自分のこととして捉えさせ、話し合うことができるようにしている。 <発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫> ○3年間を見据え、自己理解（1年）、自己啓発（2年）、自己表現（3年）と設定し、一人一人のキャリア形成と、自己実現の学習につながる教材を掲載している。 ○学年間のつながりを重視し、ストーリーに連続性を持たせた教材を掲載している。（「リョウマとマキ」シリーズ） <「考え・議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○答えが1つではない、道徳的な問題を一人一人の生徒が自分自身の問題として捉え、考え、議論ができるように工夫されている。（文末表現の工夫・議論が巻き起こるワークシート） ○教材末尾に、「考え、話し合ってみよう、そして深めよう」のコーナーを設け、生徒の思考を揺さぶる問いを投げかける工夫がされている。			
	資 料	○現場の教師が執筆したオリジナル教材や先人や著名人の体験や夢など、実話をもとにした教材など、が多数掲載されている。 ○LGBTの問題や障害者差別解消法を学ぶ資料を掲載している。 ○項目ごとにコラムを掲載している。			
	表記・表現	○学習指導要領の内容項目ごとに番号とともに教材を配置しており、学校の意図に合わせた学習計画ができるようにしている。 ○漢字にルビをつけ、難解な語句は脚注で解説している。 ○B5判の教科書で、教材の文字フォントは他社よりやや小さめである。			
総 括		○オリジナル教材が多く、キャリア教育の視点にたった教材や現代的な課題（障害者差別解消法やLGBTなど）を学ぶ教材も掲載されている。 ○巻末に振り返りページがあり、評価にも反映できる。 ○内容項目順に教材を配置したり、学年間でつながるようストーリーに連続性を持たせたりし、価値を重点的に学んだり、中学校3年間を貫いて学びを深めたりできるようにしている。			